

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス・東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか (れんげ草)		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100038-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナも落ち着いては来ましたが、感染対策は継続し利用者様への感染を防げるよう体調管理を行い医師との連携を図っています。令和5年度は看取りの方2名がおられました、最後まで関わりを絶やすことなく声掛けをしながらケアを行い、苦しむことなく最後を迎えられましたので、ご家族様から感謝の言葉を頂戴しています。職員にも看取りの在り方等の研修を行い、最後まで手を抜かず1日1日を大切に過ごせる様伝えていきます。R3年からことづかにはベトナムの方が入職、そしてR5年にはインドネシアの方が特定技能という形で入職されました。何ら日本の方との違いはなく介護を学ぶ為一生懸命仕事に励んでおられます。国の違いはありますが、前向きに取り組まれますので外国の職員の為にも働きやすい環境を整えて参りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との関係性が良く、職員はチームで利用者本位の支援に努めている。外国人職員も笑顔で利用者のハートをつかみ、「介護するのではなく、利用者の生活を支えている」という思いで業務に携わっている。家族と利用者との関係も途切れないよう、ブログを毎日更新するなど、ホームでの様子を伝えている。
法人のエリアマネージャーが働きかけたことがきっかけで、岐阜新聞にグループホームの一日を取り上げてもらい、「愛の家グループホームことづか」での取り組みを地域へ発信し、認知症や認知症ケアへの理解を深めてもらうきっかけとなっている。地域密着の事業所として、地域との交流を大切に、利用者と一緒に地域行事に積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづかの理念はもちろんの事、現在は学研やメディカル・ケア・サービスのビジョンを職員に伝えている。	掲げる理念の先頭に「ことづか」の文字を置き、作成した理念のもとで、地域の一員として暮らせるよう支援に取り組んでいる。法人のビジョン・ミッションも職員で共有し、会議や年間の研修計画の中にも振り返りの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事のご案内も増え、交流の機会も増えてきている。	自治会長の協力があり、公民館で行われる地域行事へのお誘いがある。クリスマスのリース作りやバザーなどに参加し、地域の人たちとお茶を飲みながら交流し、利用者も地域の一員として楽しんでいる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の後半より集合形式となりご家族様の参加も増え、色々な取り組みやご報告をしながらご意見を頂いている。	民生委員などの地域代表の参加があり、活発な意見交換の場となっている。ホームで特に力を入れている自立支援の取り組みなどを伝え、地域に住む高齢者の抱える課題についても、考える良い機会となっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連絡事項はメールでのやり取りも増え、取り組みについては運営推進会議にてご報告させて頂いている。	市の担当者には様々なことを相談し、細かく教えてもらっている。コロナ禍がきっかけで対面ではなく、メールでのやりとりが増えているが、良い関係性を築いている。市主催の研修などにも積極的に参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束や高齢者虐待についての研修は行っており、職員に周知している。	研修や定期的なチェックシートの実施により、不適切ケアがないかの振り返りを行っている。スピーチロックは言葉の言いかえで対応できるようOJTにより何度も繰り返し職員に伝えている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアについては定期的に見直しが行われ、定期的に職員との意見交換を行い防止に努めている。	痣ができていた時に、なぜそれができたのかを考え、対応が不適切ではなかったのかを検討している。オムツ交換の時に拒否・抵抗がある利用者に対し、どのように介助したらよいのかなど具体的な内容で検討する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修を行い、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時等は直接お話しし、納得がいく説明をさせて頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回はご家族様アンケートを行いご家族の意向を把握し運営に反映している。	家族には毎月手紙を送り、日常の様子を伝え、面会時にも話をし、要望等を聞いている。ホームのブログではちょっとした出来事を伝え、日々更新しているため、それを見た家族や親族等から感想をもらうこともある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回職員アンケートが行われ、職員の考えを知る機会があり、定期的に面談等を行い職員との意見交換を行っている。	ホーム長は職員がなんでも話せる雰囲気づくりを心がけ、意見を聞きながら運営に反映している。職員のホームに対する思いを聞くアンケートを実施し、その結果からホームとしての課題を把握することで改善に努めている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアアップ制度が設けられており、向上心のある職員はステップアップする機会が年に数回はある。	希望休をとりやすいよう配慮し、働きやすい職場づくりをしている。キャリアパスは項目が多いため、1つずつクリアしていくことを目標にし、減点ではなく加点していくもの、という考えのもと一歩ずつステップアップしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に力を入れており、取得に関する研修費用などの負担も会社が行っている為、資格取得に向けての研修も受講しやすくなっている。	同法人のホームに応援に行くこともあり、どこでも対応できる能力を身につけてもらうよう職員に働きかけている。資格取得のための研修などにも積極的に参加し、社内でも研修担当をしてもらうことで成長を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ外部との交流は少ないが、エリア内のホームとはズームにて事例を通じて意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースに合わせ生活出来る様配慮している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で本人のニーズを考え本人の意向等を確認しているが、困難な場合は日常生活の場より汲み取れるよう検討している。	日常の関わりからニーズを引き出し、申し送りノートで共有している。職員は、利用者とか一緒にしたいという思いがあり、それを利用者に伝えながら希望を聞いている。日々の気づきを記録しており必要に応じて介護計画に反映している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの意見を反映しニーズや短期目標を考え介護計画を作成している。	家族へは面会時や郵送で介護計画に関する意見をもらっている。モニタリングは計画作成者が行い、職員の意見を聞き、その結果により介護計画を作成している。利用者の得意なことを取入れて、やりたい気持ちが生まれるような工夫をしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はノータイス(介護記録)に入力しモニタリングや気づきシートでの確認を行い介護計画の見直しを行っている。	記録はIT化されており、利用者の体調管理の情報、介護計画の実施状況などを入力している。生活機能訓練で関わっている作業療法士からのアドバイスも記録している。日々の気づきをもっと詳しく記録しておくことが課題となっている。	サービス実施状況の有無だけでなく、日常から生まれる小さな意向や気づきなども記録に残せるような工夫も必要であろう。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士でその都度支援の方向性を考え、サービスを提供している。	利用者の自立支援に取り組み、ニーズに合わせて方向性が変わればその都度対応している。水分をとりやすいよう、スポーツドリンクや牛乳なども取り入れ、タンパク質補給のために豆乳などを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援も徐々に行える様になり、少しでも利用者様に楽しんで頂ける様地域資源を活用している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望にて事業所の往診医がかかりつけ医だが、往診以外にも連携を図り適切な医療を受けている。	ホームの協力医と訪問看護は連携しており、体調変化があったときでも迅速な対応がある。協力医の指示により大きな病院での受診をすることもあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院関係者と定期的に情報交換を行い早期退院の相談が出来る様努めている。	入院中は病院の相談員と連携し、適切に情報提供することで認知症の症状が進まないよう配慮してもらっている。家族とも話し合いながら、早期退院できるよう病院と連携して受入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化については十分な説明を行い、ご家族様が看取りを希望された場合は、主治医や訪看との連携を図りながら今後の方針を決めている。	看取りの希望があれば、主治医と相談して可能な範囲で対応している。利用者がより良い最期を迎えられるよう、いつでも家族との面会や、泊まることも可能であり、利用者との時間を大切に過ごせるように支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については緊急時マニュアルがフロアにあり実践出来る体制を整えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しており、1回は消防署立ち合いの下消火器を使った実施訓練も行っている。行政には避難確保計画書も提出しており自治会との協力体制を築いている。	火災想定で、消防署にも相談しながら訓練を行っている。職員は順次救命救急の講習を受けている。自治会からは、災害時の安全確認のための札を配布され、地域での取り組みについての情報提供があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や尊厳を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	人と人との関りであることを大切にして、利用者の好きなこと、嫌いなことなどを把握してその人にあった対応をしている。人生の先輩であるということへの敬意を忘れず、接するよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝える事が出来る方に対しては自己決定できる様働きかけ、出来ない方に関しては、日常の生活の中から希望を汲み取るようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の生活リズムを把握しご本人のペースに合わせた支援が出来る様にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の料理は温かいものが提供出来る様に心がけ、お誕生日にはお好きな物を食べに出かけたりしている。又調理さんがお休みの際は一緒に食事の準備を手伝って頂いている。	調理担当職員が毎食手作りしている。利用者は食材の下ごしらえや配膳などを一緒にやっている。イベント食や季節に合わせたメニューも取り入れ、夏は流しそうめんをすることもある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の栄養士が作成した献立にて提供しており、個々の栄養のバランスがノーティスにて記載される様になっている。又水分量なども目標設定を行い未達の場合はノーティス画面に水分不足として出てくる、		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回訪問歯科にて口腔ケアを行い通常自立の方には口腔ケアを促し、嚥下状態の悪い方に関しては毎食後スポンジブラシ等で口腔ケアを行っている。	口腔ケアに取り組むなかで、「歯ブラシで刺激を与えることが良い」と学ぶ機会があり、特に力を入れて取り組んでいる。義歯の管理は職員が行い、口腔内を清潔に保つことで誤嚥防止、健康状態の向上に繋がるという実感を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がなくなる事はないが、定期的にトイレ誘導を行い排泄のパターンを把握する事は出来ている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はローテーションを組み週3回以上は入れる様個々に応じた入浴の支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで休んで頂いている。介助型の方に関しては、休息の時間を設け浮腫軽減を図っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関し新人職員は副作用までは確認が出来ていない為、把握する様に伝えている。又服薬時は錠剤数や日付、名前の読み合わせを行い服薬ミス無くす取り組みをしている。	服薬マニュアルを各ユニットに掲示し、誤薬が無いよう、ダブルチェックを徹底している。利用者にも服薬前に確認してもらい、服薬後も口腔内に残っていないかをチェックしている。薬の変更があったときには連絡ノートで共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立の方には役割として出来る事をお願いし、日々楽しく過ごせるようなレクや外出支援を行い気分転換が図れるに支援している。	たばこ等の嗜好品は希望があれば対応可能となっている。これまでの趣味を活かし、書道の先生だった人は写経を行ったり、新聞を習慣で読んでいた人は継続出来るように支援をしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日に外出する機会も増えお好きな物を食べに出かけたり、自治会行事に参加し地域の方と触れ合える様に支援している。	散歩がてら近くの神社に行き、春には桜を眺めてくつろぎの時間を過ごしている。誕生日の時には利用者の希望に応じ、個別の外出支援をしている。家族との外出でドライブや外食を楽しむ人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小遣いを預かる事がなく立替払いをしている為殆どお金に触れる機会がない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分より電話や手紙をとという方はみえないが、ご家族様からの電話であったり、お孫様からのハガキなどは直接ご本人に引き継がせて頂いている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、過ごし易い空間を作り、利用者様の状態に応じ席替えを行い、季節感を感じて頂ける様四季折々の掲示物が貼られている。	リビングは利用者の交流の場でもあるため、テーブルの配置や座席は利用者同士の関係性を考慮して、落ち着いて過ごせるよう変更することもある。共有空間は常に清潔感を保つために、汚れたらすぐに掃除することを徹底している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、仲の良い方はお近くの席へ、お一人を好まれる方は窓側席であったりと都度考えながら工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は不安になられる為、ご家族様には家で使用していた物をお持ち頂く様伝えている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなる方もみえる為、わかる様な目印、ご自分の居室の区別がつかない方に関してはドアにお名前を貼る等工夫をし安全な環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス・東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか (いちいの木)		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会主催のリースづくり地域住民と共に参加したり、少しずつ地域へと出かけていく機会も増えてきました。誕生日祝いでは好きな物をお聞きし外食に出かけ喜んで頂きました。またご家族の面会も増え、ドライブや公園への散歩と一緒に出かけられ、表情も明るく笑顔が増えてきました。ホームでは利用者様と一緒に昼食を作ることもあります。玉ねぎやニンジン、ジャガイモの皮むきをお願いすると、皮むき器を使って器用にむいて下さったり、「火が通りやすいで」と考えられ野菜を小さく切って下さいます。親子井づくりの時に、試しに生卵を割ることができるかお願いすると、最初は力加減が難しくなかなか割れなかった方も、何度か調整すると黄身をつぶすことなく綺麗に割ることが出来るようになりました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100038-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年3月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼でメディカル・ケア・サービスが大切にする価値観を毎回読み合わせて共有している。 ことづかの理念も伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着き自治会からの連絡も増えてきた。利用者様と一緒に自治会主催のリースづくりの行事に参加した。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も再開され、ホームにて開催している。ご家族や行政の参加もあり、意見を頂きサービスの向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との連絡はメールでのやり取りが増えたが、取り組みは運営推進会議の場で伝えられている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議などで身体拘束に関する研修を行い周知している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議などで高齢者虐待防止に関する研修を行い周知している。3ヶ月に1回委員会を開催してホーム内での出来事について話し合い、対策を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議などで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際は、理解しやすいよう説明し、納得して頂けるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回はご家族様アンケートを実施し、意見や要望を頂き、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社からのアンケートが複数回あり、運営に関する意見や提案を聞く機会がある。また、普段より面談等を通して意見交換している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、自ら学びステップアップ出来る制度がある。またワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件になるよう努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップで資格を取りたい職員は、社内の研修を受けたり、資格取得に関する費用のほぼ全額返還制度があり、取得しやすい環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部と交流する機会はまだまだ少ないが、他ホーム間では情報交換したり、サービスの質を向上させていく、取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者1人1人の能力に合わせてお手伝いをお願いし、調理の日などに昼食づくりの声掛けし、一緒に作業して作った物を提供している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表出できる方はお聞きしたり、困難な方はカンファレンスの場などで日常生活を振り返り、本人本位に検討している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで本人がよりよく暮らせるように、様々な意見を出し合い、達成可能な介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果などはスマホの端末で記録し、皆で共有できるようになっている。朝礼、夕礼でも報告するなどし、介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご飯を食べなくなった方には、パンとコーンスープを提供したり、パンもいろいろな種類を試したり、職員間で情報交換しながら柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援も少しずつ増え、自治会の行事に参加したり、誕生日のお祝いで地域の飲食店にでかけ楽しめるように支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望をお聞きし、納得が得られている医療機関がかかりつけ医になっている。適切な医療が受けられるように、症状によって他の医療機関も受診している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、出来る場合は訪問し本人の状態を確認したり、関係者と情報交換している。また早期に退院できるように相談している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の在り方についてご家族に説明している。看取りを希望された時はかかりつけ医や訪問看護師とも連携を取り、今後の方針を決め共有している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応に備えて、各フロアーに緊急時対応マニュアルがあり対応できるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しており、うち1回は消防署の指導で消火訓練を実施している。避難確保計画書も提出しており、自治会との協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や尊厳を尊重した言葉かけや対応を心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出できる方には、「誕生日何食べたい？」「ジュースとお茶どっちが良い？」と希望を聞いたり、居室で過ごすのかリビングで過ごすのか等自己決定して頂いている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせて過ごせるように、個人のペースを大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理さんがお休みの日は、カレーやシチュー、ポトフや親子丼づくりなど、お手伝いしていただいている。個々の能力に応じて野菜の皮むき、切り物、炒め物、生卵割りなどしていただける。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の栄養士が栄養バランスを考えたメニューを提供している。水分量はスマホの端末で見ることができ、設定量より不足している方は表示されるため、都度対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科衛生士の訪問を受け、口腔内をケアして頂いている。その他の方も食後の口腔ケアを促したり、本人の力に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導やトイレでの排泄に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は入浴一覧で順番に入浴していただいているが、その時の個々の状況に応じて入浴している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立して見える方はマイペースに過ごして頂き、居室にて休めるように支援している。要介助の方も休息の時間を設けたり、夜間気持ちよく寝れるように支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前と日にち、朝食時などの時間の確認を2人で行っている。副作用まではなかなか理解できてない所もあるが、効果については日々話合っている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦歴の長い方には調理のお手伝いをしていただいたり、手先の器用な方には貼り絵を一緒にしたりと日々の生活の中で気分転換となるように支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と面会時にドライブや散歩と一緒にでかけられたり、誕生日には食べたい物を伺い、地域の飲食店に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持しておらず、触れる機会はほとんどない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから電話をかけたり、手紙を送ったりすることはないが、贈り物と一緒に手紙が届いたり、年賀状が届いたり、家族から電話があった時は取り次いだり支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、快適に過ごせるように室温や明るさを調整したり、分かりやすくトイレなど表示している。季節に応じた掲示物を作成し、掲示している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるように、席の位置を配慮し、問題が発生したら、つど席替えを実施するなどしている。時には廊下での立話もみられる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自立型の方はご自宅で使いなれた物を持ち込まれたり、ご家族が居室の模様替えをされたりしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけており、分かりやすくしている。それでもご自分の部屋が分からない方には居室ドアに大きく名前を掲示している。トイレも分かりやすく、大きな字でトイレと目印をつけてある。		